

# 平成30年 救急統計

とかち広域消防事務組合

## 凡 例

- 1 本書は、平成30年中に発生した救急事故全般について、救急事故等報告要領に基づいて算出したものを統計資料としてまとめたものです。
- 2 数字の単位未満は四捨五入しているため、総数と内訳が一致しない場合があります。
- 3 表中で使用した符号は下記のとおりです。  
「-」・・・該当数字又は集計値のないもの  
「※」・・・注釈  
「▲」・・・マイナス表示

## 目 次

### 救急業務の実施状況

- 1 救急出動件数及び搬送人員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ページ
  - 2 事故種別ごとの救急出動件数及び搬送人員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～3 ページ
  - 3 年齢区分別の搬送人員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 ページ
  - 4 傷病程度別の搬送人員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 ページ
  - 5 救急出動における現場到着所要時間及び病院収容所要時間・・・・・・・・・・ 6 ページ
- 別表 十勝管内消防署別救急出動件数と搬送人員・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 ページ

# 救急業務の実施状況

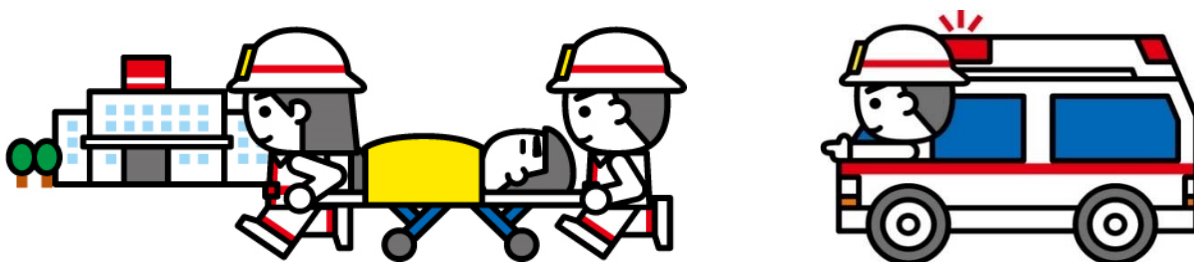
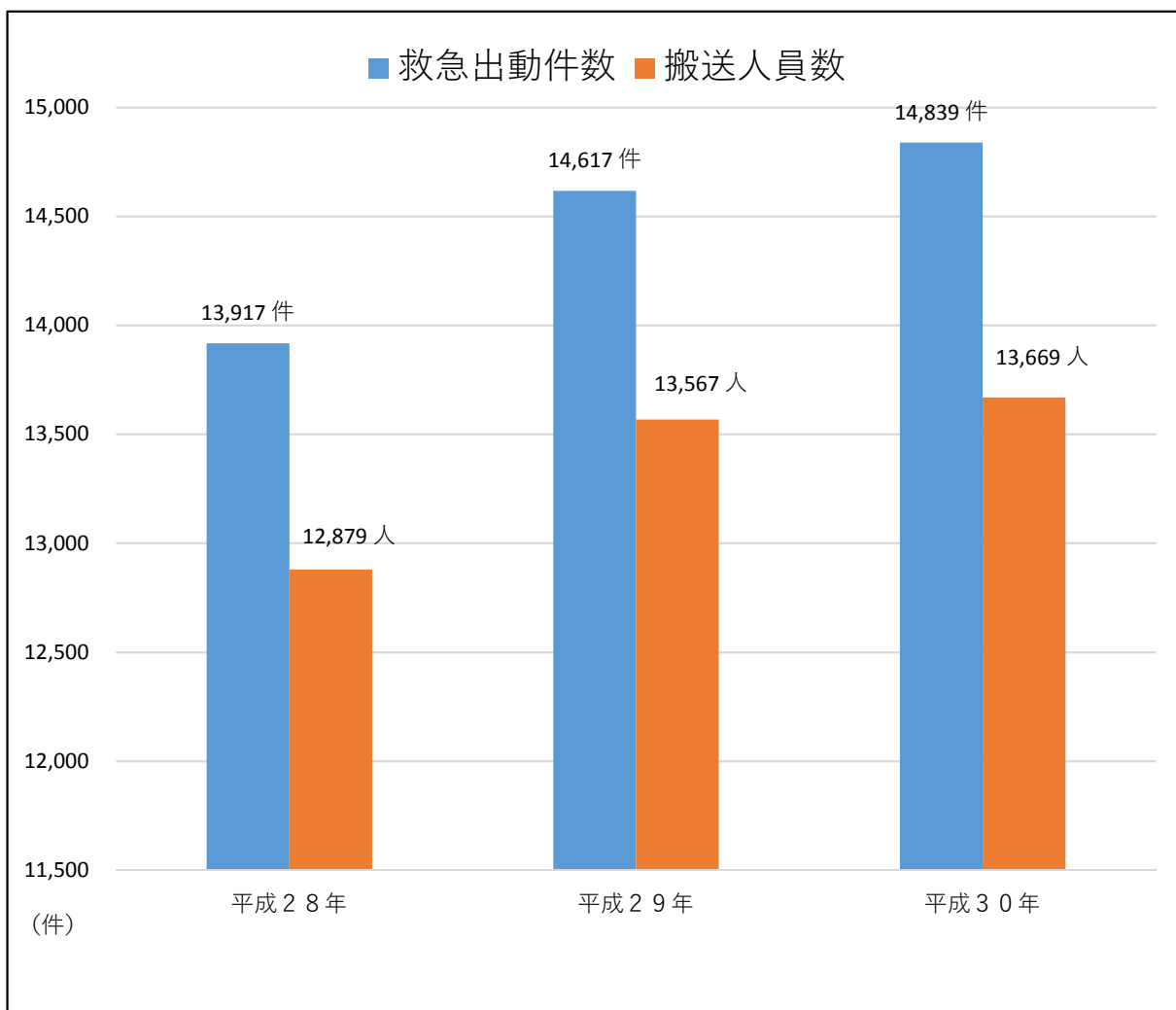
## 1 救急出動件数及び搬送人員数

平成30年中の救急出動件数は、14,839件（対前年比222件増、1.5%増）、搬送人員数は13,669人（対前年比102人増、0.8%増）で救急出動件数、搬送人員数ともに過去最多となりました。（図1）

救急車は35.4分に1回の割合で出動し、十勝管内の住民25人に1人が搬送されたこととなります。

※ 平成27年国勢調査人口（確定値）による管轄人口を基準に算出した値です。

図1 救急出動件数及び搬送人員数の推移



## 2 事故種別ごとの救急出動件数及び搬送人員数

平成30年中の救急出動件数の内訳を事故種別ごとにみると、急病が9,107件（61.4%）、一般負傷が2,078件（14.0%）、交通事故865件（5.8%）などとなっています。（表1参照）

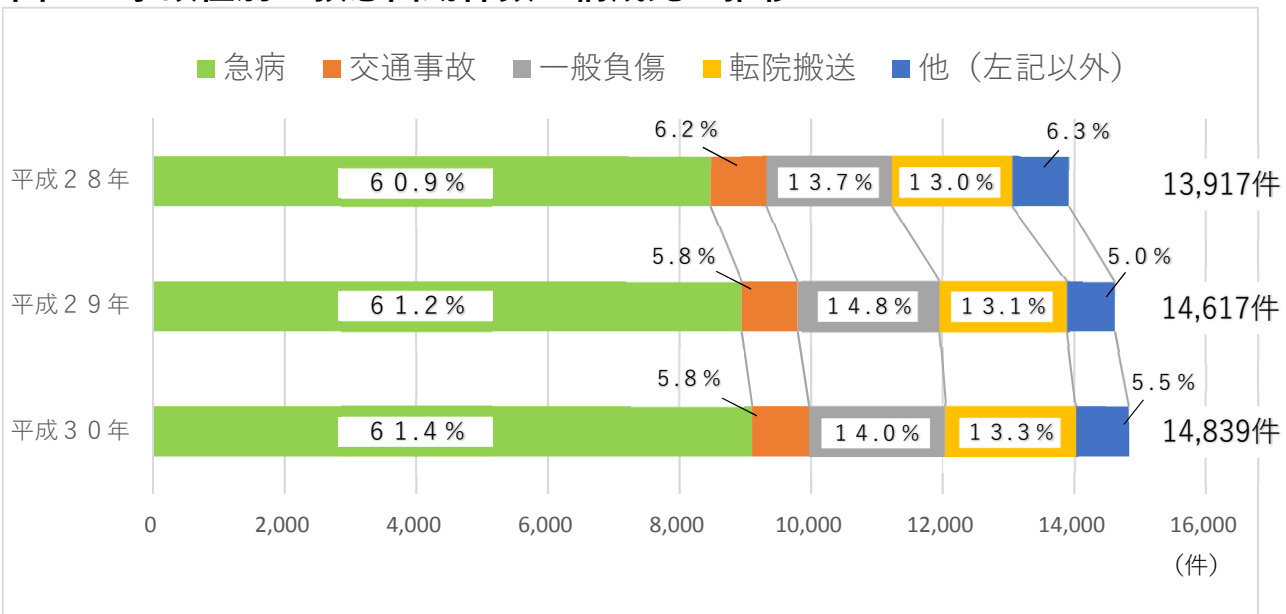
事故種別ごとの救急出動件数の推移をみると、火災、交通事故、労働災害、自損行為、急病及び転院搬送などは増加している一方で、水難、一般負傷及び加害は減少しています。

（図2参照）

表1 事故種別ごとの救急出動件数対前年比

事故種別	平成30年中		平成29年中		対前年比		
	出動件数	構成比 (%)	出動件数	構成比 (%)	増減数	増減率 (%)	
火災	61	0.4	51	0.3	10	19.6	
自然災害	0	0.0	0	0.0	0	-	
水難	2	0.0	12	0.1	▲10	▲83.3	
交通事故	865	5.8	852	5.8	13	1.5	
労働災害	198	1.3	174	1.2	24	13.8	
運動競技	120	0.8	118	0.8	2	1.7	
一般負傷	2,078	14.0	2,166	14.8	▲88	▲4.1	
加害	32	0.2	35	0.2	▲3	▲8.6	
自損行為	146	1.0	124	0.8	22	17.7	
急病	9,107	61.4	8,943	61.2	164	1.8	
その他	転院搬送	1,967	13.3	1,920	13.1	47	2.4
	医師搬送	1	0.0	1	0.0	0	-
	資機材等搬送	0	0.0	0	0.0	0	-
	その他	262	1.8	221	1.5	41	18.6
合計	14,839	100.0	14,617	100.0	222	1.5	

図2 事故種別の救急出動件数と構成比の推移



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

平成30年中の搬送人員数の内訳を事故種別ごとにみると、急病が8,434人（61.7%）、一般負傷が1,960人（14.3%）、転院搬送が1,962人（14.4%）などとなっています。（表2参照）

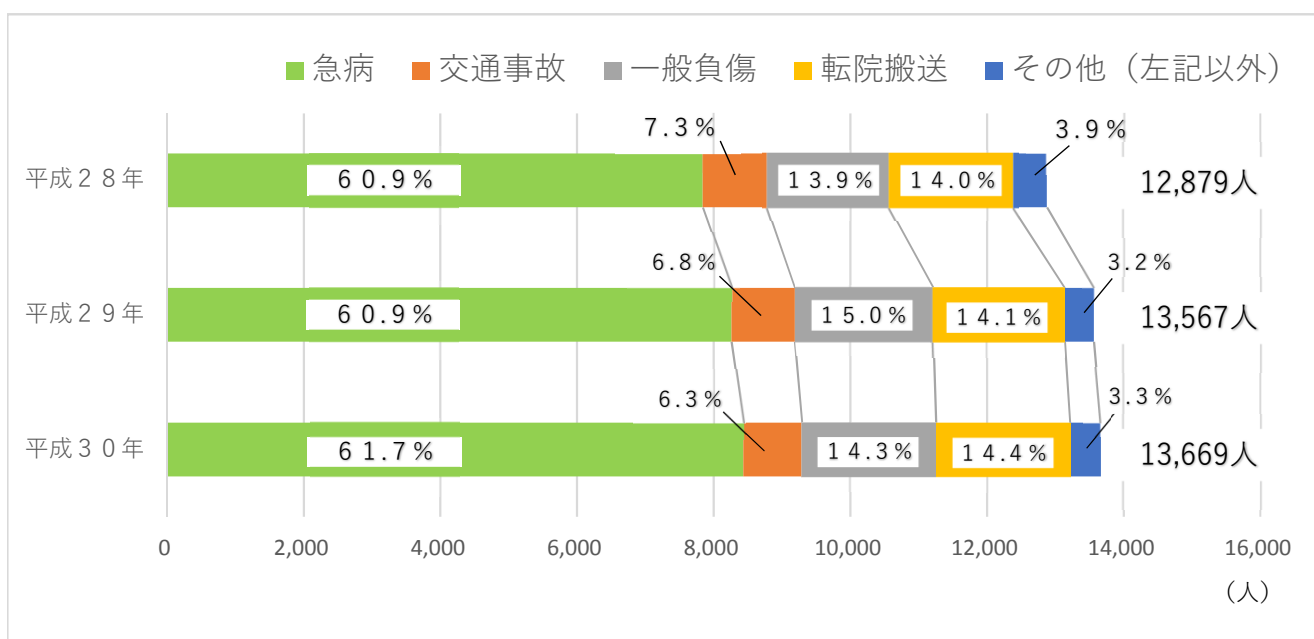
事故種別ごとの搬送人員数の推移をみると、労働災害、運動競技、自損行為、急病及び転院搬送は増加している一方で、火災、水難、交通事故、一般負傷及び加害などは減少しています。

（図3参照）

**表2 事故種別ごとの搬送人員数対前年比**

事故種別	平成30年中		平成29年中		対前年比		
	搬送人員数	構成比 (%)	搬送人員数	構成比 (%)	増減数	増減率 (%)	
火災	15	0.1	21	0.2	▲6	▲28.6	
自然災害	0	0.0	0	0.0	0	-	
水難	0	0.0	5	0.0	▲5	▲100.0	
交通事故	862	6.3	927	6.8	▲65	▲7.0	
労働災害	192	1.4	171	1.3	21	12.3	
運動競技	120	0.9	114	0.8	6	5.3	
一般負傷	1,960	14.3	2,030	15.0	▲70	▲3.4	
加害	23	0.2	29	0.2	▲6	▲20.7	
自損行為	94	0.7	74	0.5	20	27.0	
急病	8,434	61.7	8,262	60.9	172	2.1	
その他	転院搬送	1,962	14.4	1,919	14.1	43	2.2
	医師搬送	0	0.0	0	0.0	0	-
	資機材等搬送	0	0.0	0	0.0	0	-
	その他	7	0.1	15	0.1	▲8	▲53.3
合計	13,669	100.0	13,567	100.0	102	0.8	

**図3 事故種別ごとの搬送人員数と構成比の推移**



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

### 3 年齢区別の搬送人員数

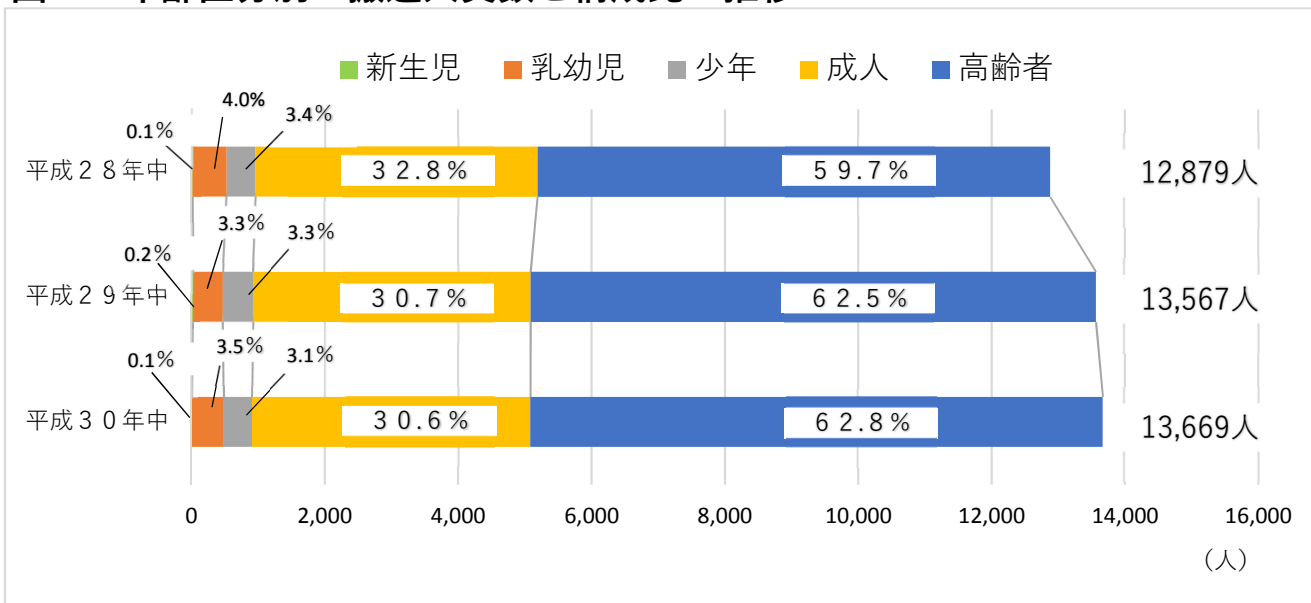
平成30年中の搬送人員数の内訳を年齢区別にみると、高齢者が8,584人（62.8%）、成人が4,176人（30.6%）、乳幼児が480人（3.5%）などとなっています。（表3参照）

年齢区別の搬送人員数の推移をみると、乳幼児と高齢者の搬送割合が増加しており、少年などが減少しています。（図4参照）

表3 年齢区別の搬送人員数対前年比

年齢区分	平成30年中		平成29年中		対前年比	
	搬送人員数	構成比 (%)	搬送人員数	構成比 (%)	増減数	増減率 (%)
新生児	10	0.1	25	0.2	▲15	▲60.0
乳幼児	480	3.5	451	3.3	29	6.4
少年	419	3.1	451	3.3	▲32	▲7.1
成人	4,176	30.6	4,161	30.7	15	0.4
高齢者	8,584	62.8	8,479	62.5	105	1.2
合計	13,669	100.0	13,567	100.0	102	0.8

図4 年齢区別の搬送人員数と構成比の推移



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

※ 年齢区分の定義

- 新生児 : 生後28日未満
- 乳幼児 : 生後28日以上満7歳未満
- 少年 : 満7歳以上満18歳未満
- 成人 : 満18歳以上満65歳未満
- 高齢者 : 満65歳以上

## 4 傷病程度別の搬送人員数

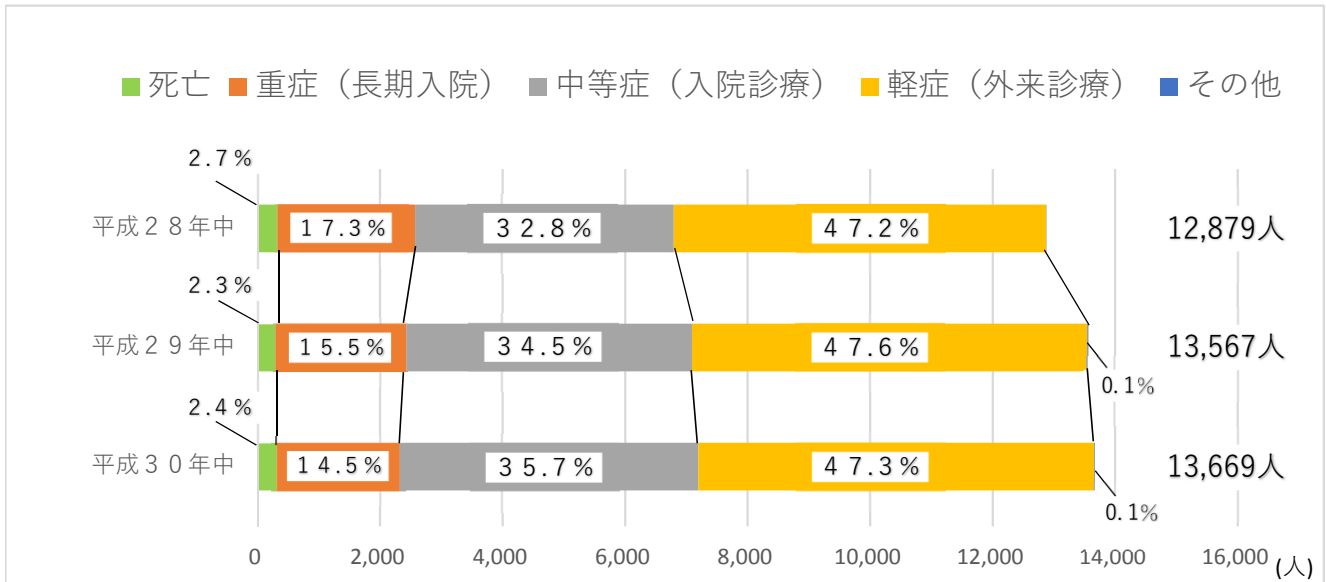
平成30年中の搬送人員数の内訳を傷病程度別にみると、軽症（外来診療）が6,460人（47.3%）、中等症（入院診療）が4,885人（35.7%）、重症（長期入院）が1,985人（14.5%）となどとなっています。（表4参照）

傷病程度別の搬送人員数の推移をみると、総搬送人員数に占める軽症の傷病者の割合は、約5割で推移しています。（図5参照）

表4 傷病程度別の搬送人員数対前年比

	平成30年中		平成29年中		対前年比	
	搬送人員数	構成比 (%)	搬送人員数	構成比 (%)	増減数	増減率 (%)
死亡	327	2.4	316	2.3	11	3.5
重症（長期入院）	1,985	14.5	2,101	15.5	▲116	▲5.5
中等症（入院診療）	4,885	35.7	4,680	34.5	205	4.4
軽症（外来診療）	6,460	47.3	6,452	47.6	8	0.1
その他	12	0.1	18	0.1	▲6	▲33.3
合計	13,669	100.0	13,567	100.0	102	0.8

図5 傷病程度別の搬送人員数と構成比の推移



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

※ 傷病程度のご定義

- 死亡：初診時において死亡が確認された方
- 重症（長期入院）：傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とする方
- 中等症（入院診療）：傷病程度が重症または軽症以外の方
- 軽症（外来診療）：傷病程度が入院加療を必要としない方
- その他：医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、もしくはその他の場所に搬送した方

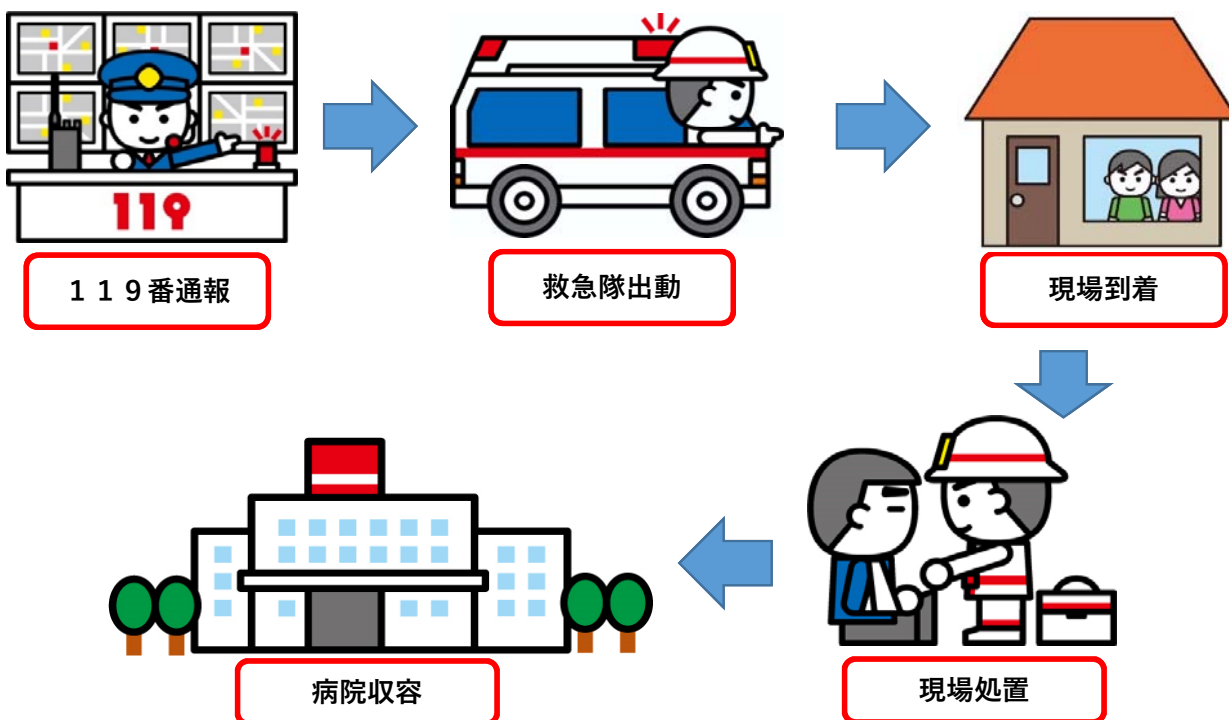
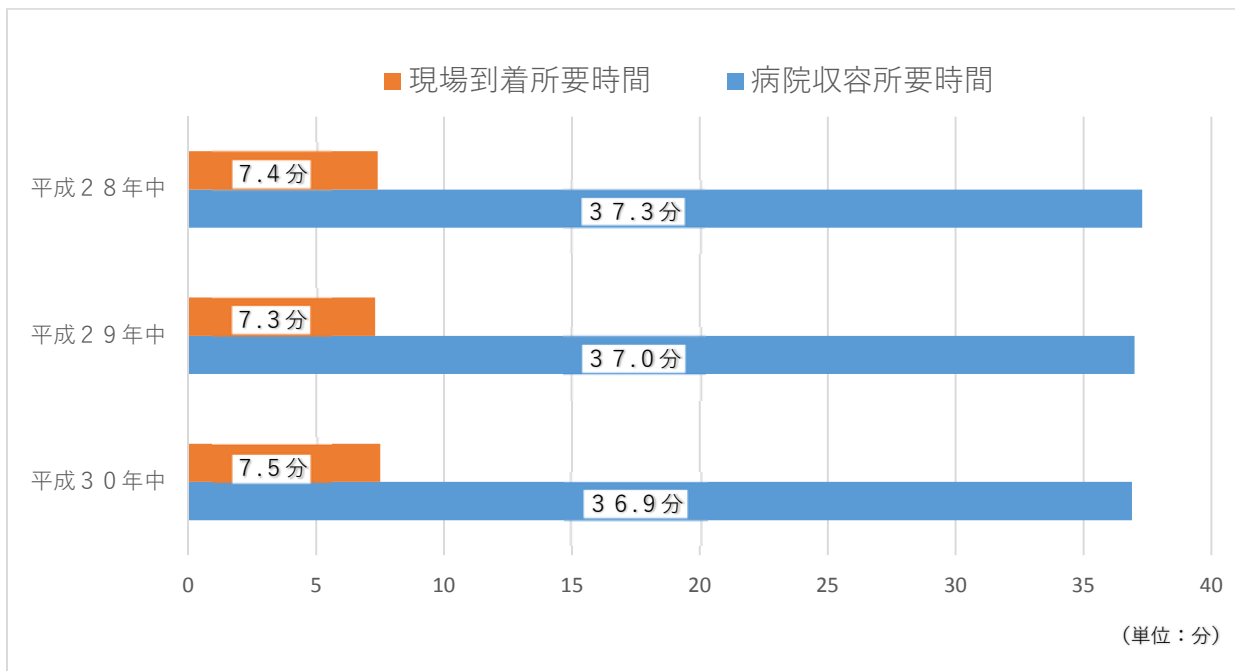
※ 傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれています。

## 5 救急出動における現場到着所要時間及び病院収容所要時間

平成30年中の現場到着所要時間（119番通報を受けてから現場に到着するまでに要した時間）は、十勝平均で7.5分となっています。（図6）

また、病院収容所要時間（119番通報を受けてから病院に収容するまでに要した時間）は、十勝平均で36.9分となっています。（図6）

図6 現場到着所要時間及び病院収容所要時間の推移





別表 十勝管内消防署別救急出動件数と搬送人員

	救急出動件数				搬送人員			
	平成30年	平成29年	増減	増減率	平成30年	平成29年	増減	増減率
帯広消防署	7,630	7,441	189	2.5%	6,766	6,643	123	1.9%
音更消防署	1,517	1,511	6	0.4%	1,442	1,429	13	0.9%
士幌消防署	286	274	12	4.4%	276	266	10	3.8%
上士幌消防署	265	244	21	8.6%	259	240	19	7.9%
鹿追消防署	179	215	▲ 36	▲ 16.7%	169	211	▲ 42	▲ 19.9%
新得消防署	239	255	▲ 16	▲ 6.3%	230	241	▲ 11	▲ 4.6%
清水消防署	332	357	▲ 25	▲ 7.0%	314	346	▲ 32	▲ 9.2%
芽室消防署	691	739	▲ 48	▲ 6.5%	667	748	▲ 81	▲ 10.8%
中札内消防署	189	171	18	10.5%	182	167	15	9.0%
更別消防署	133	96	37	38.5%	135	93	42	45.2%
大樹消防署	247	237	10	4.2%	243	229	14	6.1%
広尾消防署	299	329	▲ 30	▲ 9.1%	285	324	▲ 39	▲ 12.0%
幕別消防署	1,195	1,151	44	3.8%	1,136	1,094	42	3.8%
池田消防署	370	338	32	9.5%	363	326	37	11.3%
豊頃消防署	149	145	4	2.8%	131	132	▲ 1	▲ 0.8%
本別消防署	425	401	24	6.0%	412	380	32	8.4%
足寄消防署	384	385	▲ 1	▲ 0.3%	370	384	▲ 14	▲ 3.6%
陸別消防署	128	135	▲ 7	▲ 5.2%	121	130	▲ 9	▲ 6.9%
浦幌消防署	181	193	▲ 12	▲ 6.2%	168	184	▲ 16	▲ 8.7%
十勝総数	14,839	14,617	222	1.5%	13,669	13,567	102	0.8%

作成担当

とちぎ広域消防局救急企画課

令和元年11月作成